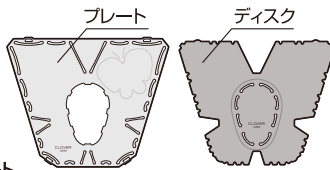


ちくちく ヨーヨープレート 〈バタフライ〉 の使いかた

はじめに

※この説明書は〈バタフライS〉
〈バタフライL〉共通です。
イラストは〈バタフライ〉で
説明しています。



ちくちくヨーヨープレート

< 規格 >	できあがりサイズ(タテ×ヨコ)
< バタフライS >	約 30mm×40mm
< バタフライL >	約 45mm×55mm

ディスクは凸面側(CLOVER
の文字が見える側)が <表>
表です

< 規格 >	布の用尺(タテ×ヨコ)
< バタフライS >	約 12cm×14cm
< バタフライL >	約 16cm×19cm



おすすめの布

薄地〜普通地のやわらかい布

例. シーチング、ブロード、
キャンブリック、薄地サテン、
オーガジー、レース(目の細かいもの)、
ちりめんなど

1 プレートの上面に布とディスクを重ねます。

2 ディスクをプレートにしっかりとめこみます。

3 縫いしろを5〜8mm残して切り抜きます。

4 縫いしろを折り返して指で押さえ、最初はディスク側から、図の(始)の位置に針を入れます。

縫いしろに隠れて見えませんがディスクの凹んだ部分に針を入れます。

あらかじめ糸端に大きめの玉結びをしておきます

5 プレート側へ針を引き出します。(1出) 次に、同じ長穴の左端に針を入れてディスク側へ引き抜きます。(2入)

この穴は縫いません

3出 2入 1出

次の長穴へ 始

プレート側を見ながら縫っていきます。

6 4・5をくり返し、左回りに縫い進みます。

縫いしろをひと針ごとに指で押さえ直して縫います

角の折りかた

角は縫いしろをディスクに沿わせるように折ります。

間違しやすいポイントです!

長穴の外側を縫わないように注意してください。
※プレートがはずせなくなります。

7 最後は重ね縫いをします。縫い始めの長穴の右端に、玉結びに針が刺さらないように注意しながら針を出します。同じ穴の左端からディスク側へ針を出して縫い終わります。(まだ玉止めはしません)

最初の長穴をもう一度縫います

8 縫い終わったら、糸を残して針をはずします。

9 次に、針に新しい糸をつけ、2本取りで玉結びをして、内周の長穴を縫います。プレート側からディスク側へ針を出します。

10 左回りに一周縫い、最初の長穴を重ね縫いします。(玉結びに針が刺さらないよう注意します)

11 縫い終わったら糸を切り、針をはずします。(まだ玉止めはしません)

糸は長めに残して切ります

12 プレートからディスクをはずします。

穴から押し出します

13 縫いしろの端を指でつまみ、ディスクから抜き取るようにはずします。

縫い目を持って斜め下へ引きます

14 縫いしろを下にして置き、内周の縫い始めと縫い終わりの糸端を両側へ引きます。

15 縫い目を強く引きしめたら、糸の両端をしっかりと2回結びます。

糸を左右に引きながら、中央を指で押し込みます

裏側にふくらみができます

結んだら、余分な糸端を短く切ります

ワンポイント

ひだの下側が図のようになっていると、できあがりかきれいです。

< 使用上の注意 >

- ・高温により変色
- ・長期間使用
- ・過度の力が
- ・本品は柔軟

規格 >	布の用尺(タテ×ヨコ)	糸の長さ(外周)	糸の長さ(内周)
'フライS >	約 12cm×14cm	約 80cm	約 50cm
'フライL >	約 16cm×19cm	約 100cm	約 60cm

おすすめの布
薄地～普通地のやわらかい布
ーチング、ブロード、
ヤンブリック、薄地サテン、
ーガンジー、レース(目の細かいもの)、
りめんなど

NG 適さない布
中厚～厚地、硬い布、目の粗い布
例、デニム、キャンパス、フェルト、中厚～
厚地ウール、コーデュロイ、パイル、ニット地、
皮革及び合成皮革、コーティング加工布、
レース(チュールなど目の粗いもの)など

4 縫いしろを下にして置き、内周の縫い始めと縫い終わりの糸端を両側へ引きます。

糸を左右に引きながら、中央を指で押し込みます

5 縫い目を強く引きしめたら、糸の両端をしっかりと2回結びます。

裏側にふくらみができます

結んだら、余分な糸端を短く切ります

16 次に、蝶々の羽の部分を作ります。

図のように中央に向かって折ります

その両側の布地も中央を集め、指で押さえます。

中央を集めて指で押さえます

17 16でつぎ合わせにした部分を指で押さえながら糸端を引きます。

左下図ワンポイントご参照下さい

ワンポイント

ひだの下側が図のようになっていないと、できあがりがかたくなります。

18 次に、羽の下半分を作ります。指などでひだを立てせながら糸を引きます。

縫いしろは内側に折りこみます

19 最後に、もう一方の羽の上部分についても16・17と同様にひだを作ります。

図のように中央に向かって折ります

指で押さえながら糸を引きます

20 縫いしろを内側に折り込み、全体の形を整えます。

余っている布地をひだの下に入れ込んで隠します

21 しっかり縮めたら、糸に針をつけ直して玉止めをします。

22 玉止めをしたひだの中に針をくぐらせて少し離れたところに出し、玉止めをひだの中に引き込んで隠します。

23 糸端をきざり切り、形を整えてできあがりです。

裏側

うまくできないときは…

- * 針が通りません。
→ ディスクはしっかりプレートにはめこまれていますか? (使いかた 2 を見て下さい)
- * 縫い終わって、プレートをはずそうとしたら、はずれません。
→ 長穴の外側を縫っていませんか? (使いかた 6 を見て下さい)
- * (縫い始めのとき) 縫えずに糸が通り抜けてしまいます。
→ 玉結びが小さすぎるか、布目が粗すぎる可能性があります。
- * (縫い終わって) 糸を引きしめようとしたら縫い目が縮まりません。
→ 長穴の端、ぎりぎりに針を入れると、針先がすべて布を縫えていないことがあります。
(※右図) ※この部分
→ 途中で返し縫いしていませんか?
→ 途中で糸が絡んでいませんか?
→ 最初の玉結びを縫ってしまっていないですか? (使いかた 7・10 を見て下さい)
- * 糸が切れてしまいました。
→ キルト糸などの丈夫な手縫い糸をご使用下さい。
→ 続けて作ると糸が傷むので、2～3個作るごとに糸は新しく替えて下さい。
- * できあがりのヨーヨーの中心の穴が大きくなってしまいます。
→ 厚い布を使うとひだに厚みがあるので、縫い縮めても中心の穴は小さくなりません。
- * できあがり裏側に余分な糸が残らないようにしたい。
→ 内周を縫うときに(使いかた 9)、反対側(ディスク側)から縫い始めます。
内周の糸端が両方とも布の裏側に出るようにして下さい。

<使用上の注意>

- ・高温により変形しますので、アイロンなどのご使用はお避け下さい。
- ・長期間使用しない場合は、布地をセットしない状態で保管して下さい。
- ・過度の力が本体に加わると破損・変形の原因となりますので、厚地や硬い布地のご使用はお避け下さい。
- ・本品は柔軟な樹脂でできていますので、爪など硬いものによって傷つくことがあります。

クローバー株式会社
〒537-0025 大阪市東成区中道3-15-5
「お客様係」TEL.(06) 6978-2277